

シェルタス

SNS投稿による被害者の二次被害を防ぐ

概要

いじめや虐待の証拠として撮られる画像や動画をSNSに上げてしまう現状をなくすためのサービス。

助けを求める被害者と助けてくれる大人がSNSのような感覚で繋がれる橋渡しを目指す。

2019年3月虐待動画炎上騒ぎ

7日（2018年3月）の夜にツイッターに投稿された「虐待動画」が瞬く間に拡散、翌8日、福岡県警春日署は春日部市内のマンションに住む39歳の母親を特定、逮捕した。もともとの動画が撮影されたのは5日なので、虐待から4日後に逮捕に至ったことになる。

5日に撮影された動画はまず、「Tik Tok」というSNSに投稿され、7日にはツイッターで拡散された。この間、全国で警察への通報が相次いだという。

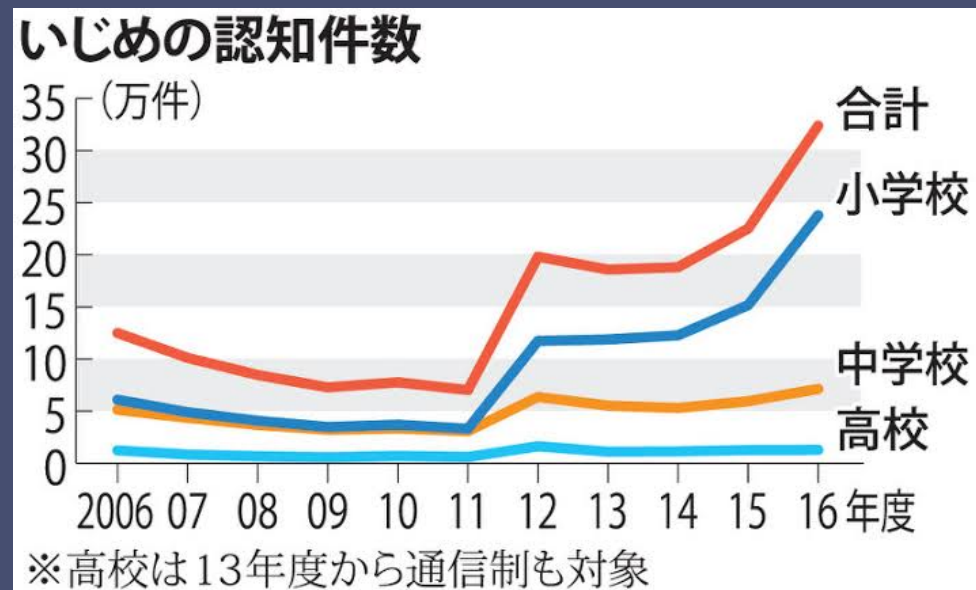
ツイッターに投稿した女性は110番通報前、SNSを通じて長男とやりとりし、「虐待で助けてほしいです」とメッセージを受けていた。

(引用: <https://www.j-cast.com/tv/2019/03/11352337.html>)

SNSで助けを求められる時代になった

しかしリスクが生じる

いじめ・虐待認知及び対応件数



(引用：文部科学省)



(引用：厚生労働省)

いじめ・虐待ともに右肩上がりなのが現状

認知経路（いじめ）

(3-5)いじめの発見のきっかけ

区分		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計		
		件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	
学校の教職員等が発見 (A)	学校の教職員等が発見	国立	3,294	71.1	345	44.6	190	92.7	91	78.4	3,920	68.4
		公立	218,111	70.1	42,332	54.9	7,137	63.7	1,259	65.5	268,839	66.9
		私立	659	56.6	1,212	48.2	2,030	60.2	1	20.0	3,902	55.3
		計	222,064	70.0	43,889	54.6	9,357	63.3	1,351	66.1	276,661	66.8
	(1)学級担任が発見	国立	1,335	28.8	113	14.6	2	1.0	35	30.2	1,485	25.9
		公立	34,867	11.2	7,971	10.3	669	6.0	346	18.0	43,853	10.9
		私立	132	11.3	238	9.5	218	6.5	0	0.0	588	8.3
		計	36,334	11.5	8,322	10.3	889	6.0	381	18.6	45,926	11.1
	(2)学級担任以外の教職員が発見 (養護教諭、スクールカウンセラー等の相談員を除く)	国立	83	1.8	40	5.2	0	0.0	2	1.7	125	2.2
		公立	4,213	1.4	4,576	5.9	409	3.6	95	4.9	9,293	2.3
		私立	21	1.8	62	2.5	129	3.8	0	0.0	212	3.0
	計	4,317	1.4	4,678	5.8	538	3.6	97	4.7	9,630	2.3	
	(3)養護教諭が発見	国立	21	0.5	11	1.4	1	0.5	0	0.0	33	0.6
		公立	941	0.3	535	0.7	71	0.6	2	0.1	1,549	0.4
		私立	10	0.9	9	0.4	21	0.6	1	20.0	41	0.6
		計	972	0.3	555	0.7	93	0.6	3	0.1	1,623	0.4
	(4)スクールカウンセラー等の相談員が発見	国立	17	0.4	1	0.1	0	0.0	0	0.0	18	0.3
		公立	513	0.2	234	0.3	22	0.2	5	0.3	774	0.2
		私立	6	0.5	7	0.3	22	0.7	0	0.0	35	0.5
		計	536	0.2	242	0.3	44	0.3	5	0.2	827	0.2
	(5)アンケート調査など学校の取組により発見	国立	1,838	39.7	180	23.3	187	91.2	54	46.6	2,259	39.4
		公立	177,577	57.0	29,016	37.6	5,966	53.2	811	42.2	213,370	53.1
		私立	490	42.1	896	35.7	1,640	48.6	0	0.0	3,026	42.9
		計	179,905	56.7	30,092	37.4	7,793	52.7	865	42.3	218,655	52.8
学校の教職員以外からの情報により発見 (B)	学校の教職員以外からの情報により発見	国立	1,340	28.9	429	55.4	15	7.3	25	21.6	1,809	31.6
		公立	93,211	29.9	34,805	45.1	4,075	36.3	664	34.5	132,755	33.1
		私立	506	43.4	1,301	51.8	1,342	39.8	4	80.0	3,153	44.7
		計	95,057	30.0	36,535	45.4	5,432	36.7	693	33.9	137,717	33.2
	(6)本人からの訴え	国立	617	13.3	242	31.3	8	3.9	21	18.1	888	15.5
		公立	50,320	16.2	18,543	24.0	2,526	22.5	403	21.0	71,792	17.9
		私立	230	19.7	734	29.2	821	24.3	4	80.0	1,789	25.4
		計	51,167	16.1	19,519	24.3	3,355	22.7	428	20.9	74,469	18.0
	(7)当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	国立	489	10.6	118	15.2	2	1.0	2	1.7	611	10.7
		公立	29,094	9.3	10,557	13.7	854	7.6	141	7.3	40,646	10.1
		私立	188	16.1	383	15.2	300	8.9	0	0.0	871	12.3
		計	29,771	9.4	11,058	13.7	1,156	7.8	143	7.0	42,128	10.2
	(8)児童生徒(本人を除く)からの情報	国立	151	3.3	49	6.3	3	1.5	2	1.7	205	3.6
		公立	8,899	2.9	3,945	5.1	502	4.5	77	4.0	13,423	3.3
		私立	59	5.1	122	4.9	140	4.2	0	0.0	321	4.5
		計	9,109	2.9	4,116	5.1	645	4.4	79	3.9	13,949	3.4
	(9)保護者(本人の保護者を除く)からの情報	国立	68	1.5	16	2.1	2	1.0	0	0.0	86	1.5
		公立	4,017	1.3	1,411	1.8	132	1.2	30	1.6	5,590	1.4
		私立	25	2.1	48	1.9	60	1.8	0	0.0	133	1.9
		計	4,110	1.3	1,475	1.8	194	1.3	30	1.5	5,809	1.4
	(10)地域の住民からの情報	国立	5	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.1
		公立	247	0.1	93	0.1	4	0.0	1	0.1	345	0.1
		私立	1	0.1	1	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.0
		計	253	0.1	94	0.1	4	0.0	1	0.0	352	0.1
	(11)学校以外の関係機関(相談機関等含む)からの情報	国立	0	0.0	3	0.4	0	0.0	0	0.0	3	0.1
		公立	414	0.1	166	0.2	33	0.3	11	0.6	624	0.2
		私立	3	0.3	4	0.2	16	0.5	0	0.0	23	0.3
		計	417	0.1	173	0.2	49	0.3	11	0.5	650	0.2
	(12)その他 (匿名による投書など)	国立	10	0.2	1	0.1	0	0.0	0	0.0	11	0.2
		公立	220	0.1	90	0.1	24	0.2	1	0.1	335	0.1
		私立	0	0.0	9	0.4	5	0.1	0	0.0	14	0.2
		計	230	0.1	100	0.1	29	0.2	1	0.0	360	0.1
計 (C)	計	国立	4,634	100.0	774	100.0	205	100.0	116	100.0	5,729	100.0
		公立	311,322	100.0	77,137	100.0	11,212	100.0	1,923	100.0	401,594	100.0
		私立	1,165	100.0	2,513	100.0	3,372	100.0	5	100.0	7,055	100.0
		計	317,121	100.0	80,424	100.0	14,789	100.0	2,044	100.0	414,378	100.0

(注1)「学校の教職員等が発見」が「学校の教職員以外からの情報により発見」のいずれかを選択し、その内訳についても該当するもの一つ選択している。

(注2) 構成比は、国公立それぞれの「計(C)」における割合。(1)から(5)の構成比の合計は(A)の構成比に等しい。(B)と(6)から(12)も同様。

校内で発見

1.アンケート調査など 52.8

2.学級担任 11.1

3.学級担任以外 2.3

4.養護教諭 0.4

5.相談員 0.2

校外で発見

1.本人 18.0

2.本人の保護者 10.2

3.本人以外の児童生徒 3.4

4.知人 1.4

5.学校以外の関係機関 0.4

6.地域住民 0.1

7.その他 0.1

(引用：文部科学省)

認知経路（虐待）

児童相談所での虐待相談の経路別件数の推移

○ 平成29年度に、児童相談所に寄せられた虐待相談の相談経路は、警察等、近隣知人、家族、学校等からの通告が多くなっている。

	家族	親戚	近隣知人	児童本人	福祉事務所	児童委員	保健所	医療機関	児童福祉施設	警察等	学校等	その他	総数
20年度	6,134 (14%)	1,147 (3%)	6,132 (14%)	558 (1%)	6,053 (14%)	319 (1%)	282 (1%)	1,772 (4%)	1,552 (4%)	6,133 (14%)	4,886 (11%)	7,696 (18%)	42,664 (100%)
21年度	6,105 (14%)	1,237 (3%)	7,615 (17%)	504 (1%)	5,991 (14%)	317 (1%)	226 (1%)	1,715 (4%)	1,401 (3%)	6,600 (15%)	5,243 (12%)	7,257 (16%)	44,211 (100%)
22年度	7,368 (13%)	1,540 (3%)	12,175 (22%)	696 (1%)	6,859 (12%)	343 (1%)	155 (0%)	2,116 (4%)	1,584 (3%)	9,135 (16%)	5,667 (10%)	8,746 (16%)	56,384 (100%)
23年度	7,471 (12%)	1,478 (2%)	12,813 (21%)	741 (1%)	6,442 (11%)	327 (1%)	202 (0%)	2,310 (4%)	1,516 (3%)	11,142 (19%)	6,062 (10%)	9,415 (16%)	59,919 (100%)
24年度	7,147 (11%)	1,517 (2%)	13,739 (21%)	773 (1%)	6,559 (10%)	293 (0%)	221 (0%)	2,653 (4%)	1,598 (2%)	16,003 (24%)	6,244 (9%)	9,954 (15%)	66,701 (100%)
25年度	7,393 (10%)	1,554 (2%)	13,866 (19%)	816 (1%)	6,618 (9%)	290 (0%)	179 (0%)	2,525 (3%)	1,680 (2%)	21,223 (29%)	6,498 (9%)	11,160 (15%)	73,802 (100%)
26年度	7,806 (9%)	1,996 (2%)	15,636 (18%)	849 (1%)	7,073 (8%)	281 (0%)	155 (0%)	2,965 (3%)	1,714 (2%)	29,172 (33%)	7,256 (8%)	14,028 (16%)	88,931 (100%)
27年度	8,877 (9%)	2,059 (2%)	17,415 (17%)	930 (1%)	7,136 (7%)	246 (0%)	192 (0%)	3,078 (3%)	1,725 (2%)	38,524 (37%)	8,183 (8%)	14,921 (14%)	103,286 (100%)
28年度	9,538 (8%)	1,997 (2%)	17,428 (14%)	1,108 (1%)	7,673 (6%)	235 (0%)	203 (0%)	3,109 (3%)	1,772 (1%)	54,812 (45%)	8,850 (7%)	15,850 (13%)	122,575 (100%)
29年度 (速報値)	9,664 (7%) (+126)	2,171 (2%) (+174)	16,982 (13%) (-446)	1,118 (1%) (+10)	7,626 (6%) (-47)	218 (0%) (-17)	168 (0%) (-35)	3,199 (2%) (+90)	2,046 (2%) (+274)	66,055 (49%) (+11,243)	9,281 (7%) (+431)	15,250 (11%) (-600)	133,778 (100%) (+11,203)

※ 割合は四捨五入のため、100%にならない場合がある。
※ 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値である。
※ 平成29年度の「その他」で最も多いのは、「(他の)児童相談所」が6,328件である。
※ 平成29年度の件数は、速報値のため今後変更があり得る。

平成29年度

- 警察等(49%)
- 近隣・知人(13%)
- 学校等・家族(各7%)
- 福祉事務所(6%)
- 親戚・児童福祉施設・医療機関(各2%)
- 児童本人(1%)
- その他(13%)

(引用：厚生労働省)

認知経路は様々だが少なくとも
SNSを通じた認知はここ数年で
かなりの数になると思われる。

相談できる機関・団体は意外とある

いじめ

- 地方公共団体
- NPO法人
- いじめから子供を守ろうネットワーク
- 朝日学生新聞社...など

虐待

- 地方公共団体
- NPO法人
- 児童相談所共通(tel:189)
- オレンジリボン運動...など

しかし電話相談がほとんど

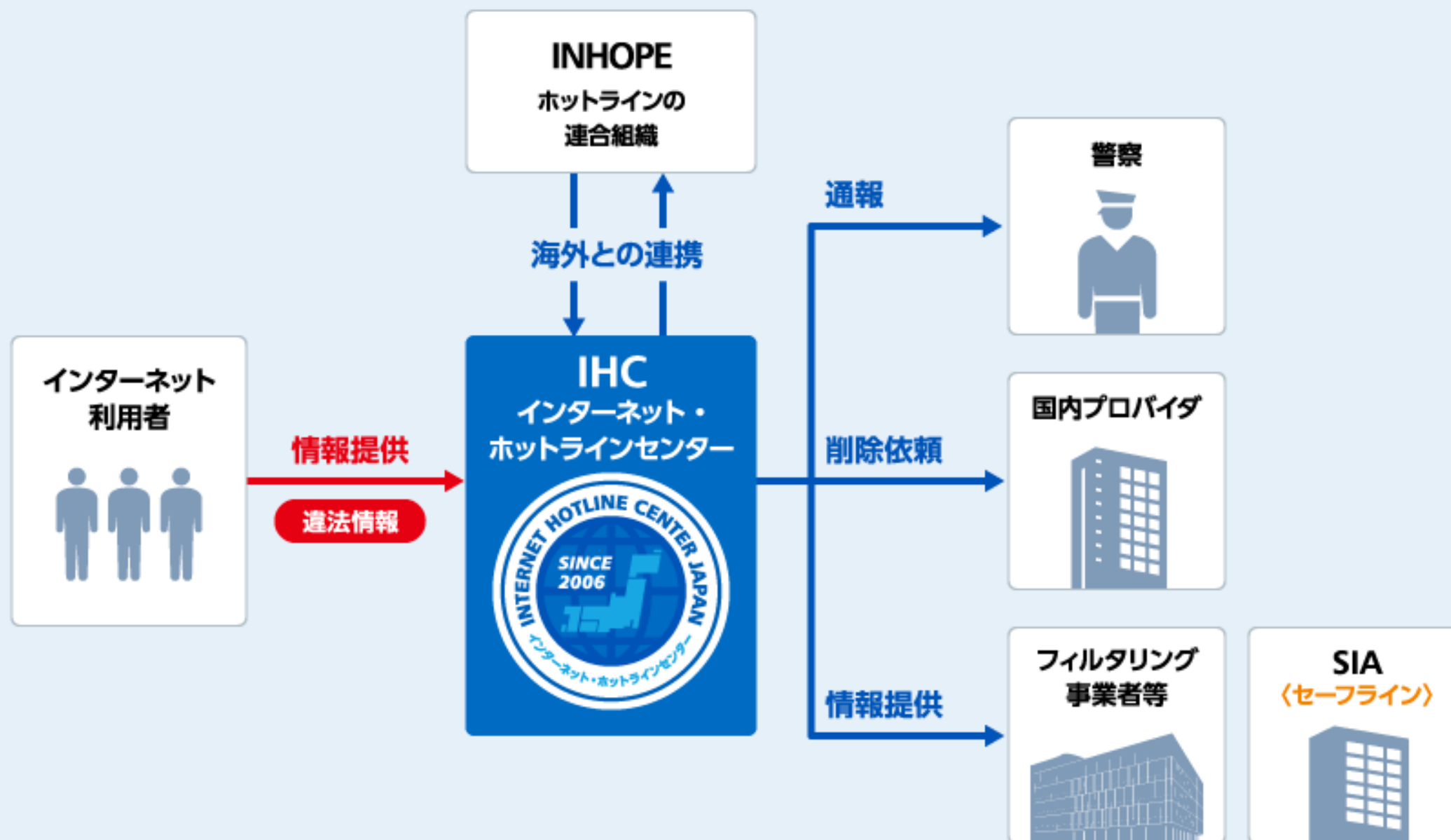
文部科学省がSNS相談事業を推進しているが、
昨年度の実施団体は50団体にも満たない

いじめ・虐待に関して
「ココに連絡すれば！」
といった場所がない

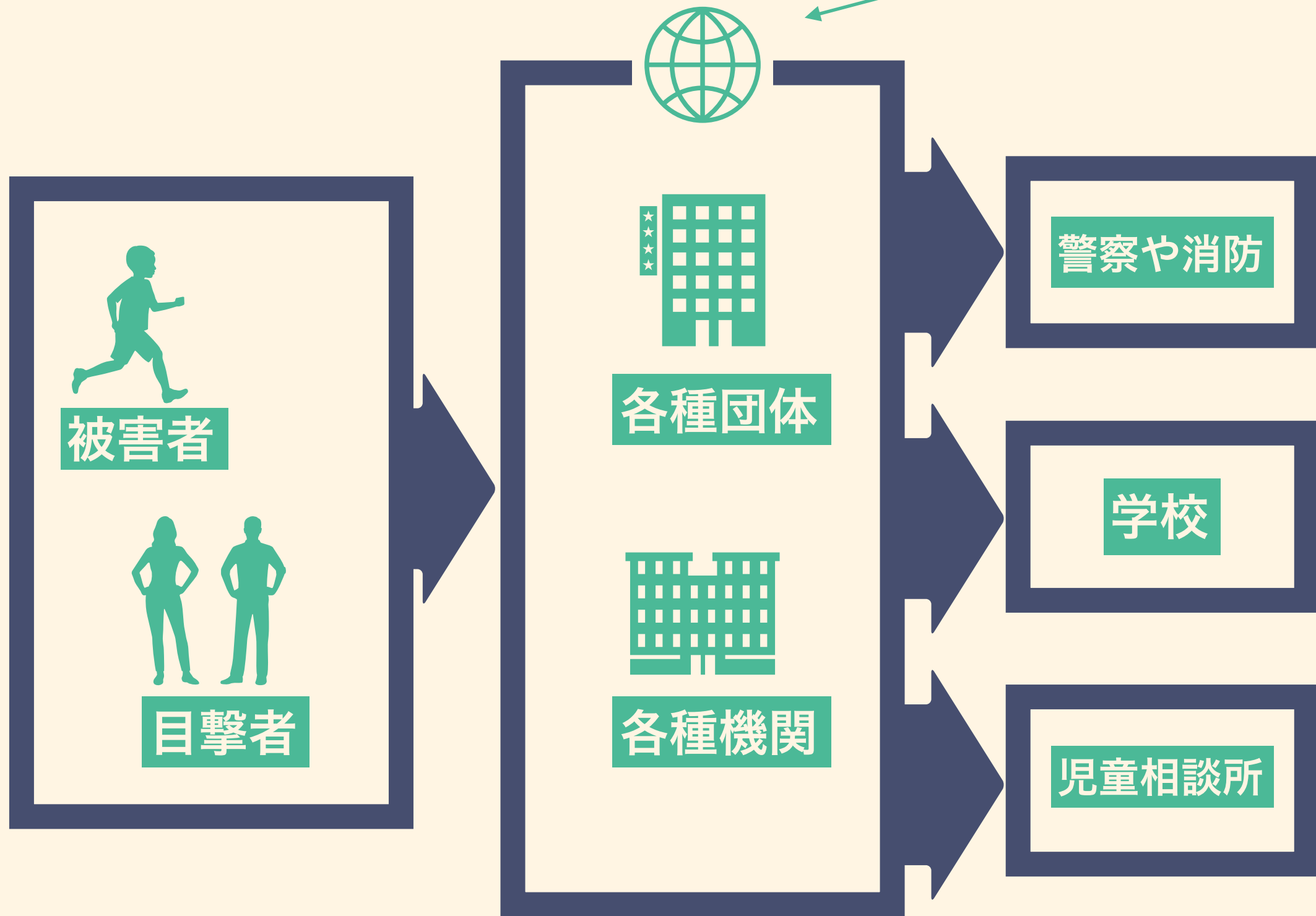
「すぐに助けてほしい」
「とりあえず話を聞いてほしい」

これらのいろいろな思いを迷いなく
また手軽に通報・相談できる
そんな場所があればいいと思う

実はネット上だとこういうのがある



シェルタス



こういう流れができるといい

SNSのように気軽にアップロード
できる環境をつくれば
今までよりも気軽に
相談できるかもしれない

なにかいじめや虐待に困れば、
「シェルタス」を使おう！と
いう流れを作りたい